

公益財団法人CTC未来財団

令和5年度(2023年度)第6期事業報告

(2023年4月1日から2024年3月31日まで)

この法人は、明日を変えるITの可能性に挑み、持続可能な夢のある豊かな社会の実現に貢献する「次世代の育成支援」を目的として、伊藤忠テクノソリューションズ株式会社(以下「CTC」という。)が設立者となり、2019年10月1日に設立されました。2021年3月1日に公益認定を受け、公益財団法人として公益目的事業に取り組んでおります。

第6期は、設立直後より続いていた新型コロナウイルス感染症に伴う行動制限が解除され、本来の活動を実施することが可能となりました。

また、より広く公益活動の内容をご理解いただくため、Webによる活動事例の公開、外部の教育イベントへの参加、全国の小学校へのDM発送など、様々な広報活動にも取り組んでまいりました。

1 事業の概要

(1) 児童・青少年に対するIT教育の支援事業

「次世代を支える児童・青少年の育成」に寄与する活動の一環として、小中学生向けのワークショップを開催することにより、コンピューターを意識することなくアルゴリズムに接する機会を提供し、次世代を生き抜くために必要な論理的、創造的、共創的思考力及びコミュニケーション力の形成に寄与することを目的としています。

プログラム言語の習得だけではなく、身近に存在する情報技術に意識を向け、社会の課題解決にデータやテクノロジーを利活用できるよう、ストーリー性をもった教材の開発、貸出を行っています。

① ビジュアルプログラミングによる創作意欲を育むワークショップ事業

新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことを受け、Scratchを使ったオリジナルのクイズゲーム教材にて集合対面型の児童向けプログラミングワークショップを2023年12月御殿場市、2024年2月さいたま市の2拠点で実施しました。

② 論理的思考とチームワークを育む教材貸出事業

「みんなでチャレンジ! ITエンジニア」(通称「みんチャレ」)は、Webによる事

例紹介を強化し、貸出セット数を3セットから5セットに増強しました。また、全国の小学校へDMを発送した効果もあり、2023年度は申込数50校（貸出実施:49校、先方都合でキャンセル:1校）の教材貸出を実施することができました。

③ 論理的思考と情報科学を学ぶカード教材の無償配布事業

一般社団法人情報オリンピック日本委員会（JCIOI）ジュニア部会と協働し制作した、小学1-4年生向け40枚と小学5-6年生向け28枚の「ビーバーチャレンジ学習カード」を1セットとして、2022年9月より無償配布しています。初版のカードセットを2023年6月中に配布し終わり、第2版を増刷しました。2023年度は538セット、累計1,234セットを申込のあった小学校等の教育施設に配布しました。また、アンケート結果をもとに教材活用の事例をWebにて公開しています。

④ 特別支援学級の生徒も参加するデジタルアートワークショップ

プログラミングに限らず、情報技術の活用は多岐に渡ることを実感してもらうこと、新たな興味関心を引き起こす体験機会創出を目的に、学校に配備されたIT端末を活用し、デジタルに取り込んだ線画に色を塗ることで、個性を表現するデジタルアートワークショップを2023年7月小平市立小平第五中学校、2024年1月小平市立花小金井南中学校、2024年3月南房総市立富山中学校にて実施しました。

生徒が制作したデジタルアートをお互いに鑑賞しあうことで、お互いの作品のテーマや制作意図の違いに気づきを与えています。

⑤ 高校生向け教材の開発及び支援

高校生向け教材の開発検討を開始しています。

(2) ITを志す青少年に対する修学支援事業

① 新規奨学生の募集及び選定

奨学事業として、2023年度対象大学30校（国公立大25校、私立大5校）を選定し、ホームページに告知掲載、大学を通して新規奨学生を募集し、選考委員会を経て新規奨学生17名を理事会決定しました。

- ・募集期間：2023年3月15日から2023年4月26日まで
- ・奨学生選考委員会：2023年5月24日
- ・奨学生の決定に係る理事会：2023年5月30日
- ・奨学生への決定通知：2023年6月2日（大学および本人に通知）
- ・応募総数：43名
- ・決定奨学生：17名（1年生13名、3年次編入生4名）

- ・ 給付金額：月額 6 万円（年額 72 万円）返済不要
- ・ 給付期間：4 年間（3 年次編入の場合は 2 年間）いずれも正規の最短修学期間
- ・ 給付時期：3 か月毎に給付

② 修学継続が困難な学生への応援給付（授業料補助金）

経済的な理由で修学継続が困難な状況にありながら大学授業料の全額免除を受けていない学生に対し、修学の継続支援と授業料の自己負担の軽減を目的に、大学授業料の自己負担分に充当する返済不要の補助金を給付することを第 6 期第 3 回理事会（2023 年 9 月 8 日）にて決定しました。

国公立大 49 校、私立大 21 校、計 70 校を募集対象大学に選定し、学生応援給付（授業料補助金）の募集について大学を通し告知しました。

- ・ 募集期間：2023 年 9 月 15 日から 2023 年 10 月 14 日まで
- ・ 給付学生選考委員会：2023 年 11 月 2 日
- ・ 給付学生の決定に係る理事会：2023 年 11 月 13 日
- ・ 給付学生への決定通知：2023 年 11 月 14 日（大学を通して通知）
- ・ 証憑資料の提出期間：2023 年 11 月 15 日から 2023 年 11 月 27 日まで
- ・ 応募総数：55 名
- ・ 給付確定者数：47 名
- ・ 給付金の支給：2023 年 12 月 7 日
- ・ 給付総額：582 万円 前期授業料の自己負担分（最大 20 万円） 返済不要

③ 2024 年度奨学金対象大学の選定

THE 世界大学総合ランキング（日本版）100 位までの大学を対象に、大学偏差値、大学インパクトランキングのポイントを抽出、上位 50 大学（国公立大 35 校、私立大 15 校）を 2024 年度奨学生募集対象大学として選定し、第 5 回理事会（2024 年 2 月 19 日）にて決定しました。

④ 奨学生交流会の実施

2023 年度は対面（オンライン併用）での交流会を 2023 年 7 月と 11 月の 2 回開催を計画し、46 名の奨学生及び 7 名の卒業生に案内をしました。

7 月の交流会は 2023 年度の新奨学生と既奨学生及び財団事務局との交流を目的として開催し、20 名の奨学生（現地参加 18 名、オンライン参加 2 名）が参加いたしました。

また、11 月の交流会は奨学生の育成を目的に、CTC の協力を得て、イノベーション思考のワークショップや金融データ活用ボードゲームを実施しました。

交流会の様子は、財団ホームページ上の「活動事例＞活動レポート」にも掲載しています。

⑤ 奨学生および給付金学生の学業生活状況の把握

奨学生については年度末に成績証明書と生活状況報告書、応援給付金学生については生活状況報告書の提出を求めています。

46名の奨学生のうち12名が今春大学を卒業予定でしたが、家庭の事情等により10名が卒業となりました。また、少ないながら体調不良により休学となる学生も出ており、必要な手続きをご案内しつつ見守っています。

⑥ 奨学生連絡会の発足

2023年度終了時点で卒業生が17名となりました。CTC未来財団がプラットフォームとなって卒業生同士や現役奨学生との情報交換などの交流を深めるため、卒業生を対象に任意参加を前提とする財団奨学生連絡会を発足しました。

(3) 障がいのある青少年に対する修学及び就労機会創出の支援事業
2023年度助成事業として、下記の23大学等へ助成金を給付しました。

【備品・アプリケーション購入】

※障がい表記については大学等各団体の表記を使用

団体名	目的	助成対象
国立大学法人山梨大学 学生サポートセンター アクセシビリティ・コ ミュニケーション支援室	聴覚障がい学生のための学生サポーターの確保、養成、支援技術の向上を継続していくことで、支援機器の充実による安心、安定した支援を行う。	ノートパソコン、タブレット、ワイヤレスマイク等
学校法人日本福祉大学 学生支援センター	聴覚障害のある学生だけでなく、発達障害のある学生に対しても ICT 機器の活用の幅を広げ、学生個人の特性にあった方法で学修できる環境を整備することで、多様な学生の支援が推進することを目的とする。	iPad 及び関連備品、ワイヤレスマイクロホン、iRig2
千葉県立特別支援学校 市川大野高等学園	千葉県内の特別支援学校では、レーザーカッターなどの ICT 機器は取り入られていない。そこで、本校のパソコン部の活動にて本機材を使用し、生徒が主体的に考えて発案した新たな製品や、ICT を用いた具体的な活動が促進されると考えられる。	レーザーカッター
国立大学法人東京農工 大学	主に発達障害のある学生を対象に心理検査を実施し、個別面談を通して自己理解を促進することで大学適応や進路選択への援助を行う。また、災害時に障がいのある学生が安全安心に過ごせる環境を整備する。	WAIS-IV 知能検査、避難所用個室テント
国立大学法人名古屋工 業大学 学生なんでも相談室	聴覚障害や発達障害により「音」の問題を抱える学生が、実験や演習、研究室での議論等グループワークの場において、主体的に参加できるよう環境を整え、障害学生の修学や研究活動が充実するよう支援する。	聴覚支援機器
学校法人南山学園 南山大学 保健センター	電子タブレットを活用し、聴覚障害、視覚障害、発達障害等の学生ならびにその保護者との対話やコミュニケーションの補助・支援を担う。	Apple iPad、Magic Keyboard、Apple Pencil
学校法人京都橘学園 京都橘大学 サポートリンクス (障害学生支援室)	昇降デスクやエルゴノミックチェアを活用し、周囲の刺激を低減し、姿勢を楽に維持する体勢が取れる学修環境を構築することで、肢体不自由や発達・精神障害のある学生に対し、オンライン配信型の授業受講や自習を支援する。	昇降デスク、エルゴノミックチェア、360度カメラ
独立行政法人国立高等 専門学校機構 東京工業高等専門学校	移動に困難のある学生等の災害時の避難方法の選択肢を増やすことで、災害時リスクの軽減につなげる。また、避難訓練時に機器の使用方法について学ぶ機会を設け、障がい者への理解促進のための啓発活動に使用する。	災害・非常用階段避難車
大阪府立福井高等学校	脳性まひのため肢体不自由となり、発語がなく指先のみ動く、知的障がいのない生徒が、学内で他の生徒と同じような学習の機会に触れ学習に取り組むことができるよう、環境調整を行い、本来持っている能力を発揮できるよう整備する。	Apple iPad、ディスプレイ、スロープ等
国立大学法人金沢大学	身体障がいのある学生に対する、体調不良や災害時などの緊急時の情報伝達及び安全確保の設備が必要なため、担当者間の連絡ツール及び移動用の機材・備品を整備する。	IP 電話機、災害備蓄用ストレッチャー等

団体名	目的	助成対象
慶應義塾 協生環境推進室	視覚障害を持つ学生の修学支援のため、持ち運びができ、利便性の高いポータブル拡大読書器を2台購入。複数台所持することで、複数キャンパスでの貸し出しが可能となる。	ポータブル拡大読書器
学校法人同朋学園 名古屋造形大学	本学は美術大学という特性上、実技・演習科目は制作活動に加え、ディスカッションや作品のプレゼンテーションなど、学生間及び学生・教員間でコミュニケーションを取りながら能動的に授業を進める形態となっている。授業形態上、ノートテイクでの情報支援には限界があり、それに代わる方法として補聴援助システム「ロジャー」の導入で円滑かつ質の高い授業を目指す。	補聴器補助「ロジャー」
国立大学法人筑波大学 附属視覚特別支援学校	視覚に障害のある生徒が、図書館において主体的な学習や読書を行うために活用できる機器を整備する。	拡大読書器、デジタイズ録音再生機
国立大学法人福岡教育 大学 障害学生支援センター	年々多様化する障害のある学生のニーズ及び講義やゼミなど、教室環境や授業形態に応じた支援を行うことができるよう、新たに支援機器を導入し支援体制の充実を図る。	対話支援機器
国立大学法人九州大学 キャンパスライフ・健康 支援センター インクルージョン支援 推進室	IT技術を用いて、教室外にいる支援者に対し教室等の音声情報を送信し、遠隔地からでも支援が可能な環境を整備する。 また、災害時の移動支援や避難所での障害特性に合わせた調整を行う。	聴覚情報支援機器、 災害時支援物品
国立大学法人山形大学 工学部学生相談室	保健管理室に来室した障がい学生向けに、より理解しやすい案内を掲示する。タッチパネル式の案内によりコミュニケーションの負担が軽減され、ニーズはあっても問合わせできない学生へのサポート体制の充実を図る。	プログラム作成用 機器、情報案内用及 び管理用パソコン
国立大学法人高知大学 学び創造センター インクルージョン支援 推進室	障害を持つ学生本人に努力してもらうのではなく、IT機器及びツールを導入することにより、障害を持つ学生の修学機材へのアクセシビリティを高め、健常な学生と変わらない研究環境を構築する。	UD トーク、 マイク一式

【研究・開発】

※障がい表記については大学等各団体の表記を使用

団体名	研究テーマ	概要
学校法人立教学院 立教大学	LaTeXによる理数系双方向コミュニケーションツールの開発	視覚しょうがい学生が理系学問を学ぶ上で最も大きな困難の一つが数式やグラフを含む資料へのアプローチである。音声や自動点訳では対応できないこの問題に対し、本研究は理系文章点訳システムを構築し、視覚しょうがい学生の学習支援のみならず研究者である教員の負担軽減などを含む諸問題の解決を目指すものである。
国立大学法人 東海国立大学機構 岐阜大学教育学部	自動音声認識システムを利用した教育実習で活用できる聴覚障害学生への情報保障システムの開発	教育学部の講義や教育実習では、意見交流を取り入れた「対話的学び」が重要視されている。本研究では、聴覚障害学生にとって聞き取りが困難な意見交流場面にも対応できるような、新しい情報保障システムを開発する。
国立大学法人筑波大学 ヒューマンエンパワーメント推進局	高等教育機関における高度なアクセシビリティを備えたWebの構築および効果検証	アクセシビリティの向上を目的として、本学障害学生支援担当部署のWebページの改修に関して、改修前後で、①Webページを閲覧した全ての学生におけるユーザビリティが向上するか、②Webページを利用した障害のある学生等における援助要請に関わる尺度の得点が向上するかを検証する。
国立大学法人大阪大学 キャンパスライフ健康支援・相談センター	発達障害のある大学生の課題遂行を支援するアプリケーション開発	発達障害の大学生のタスク管理能力を向上させることを目的としたアプリケーションを開発する。アプリケーション利用によって、課題に要する時間や難易度を把握することで、学生は課題完了時間の見積もりや、優先順位づけが行いやすくなる。
国立大学法人筑波技術大学	多様な手話を対象とするプライバシーに配慮したデータ収集・変換・公開方式の確立	本研究は、手話認識システムの開発や実用化に必須な手話データについて、公開可能な手話データセット作成のためのデータ収集方式、プライバシーに配慮したデータ公開方式を検討するものである。
国立大学法人筑波技術大学 日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク (PEPNet-Japan)	聴覚障害学生支援のためのワンストップ型ナレッジベースの構築	コロナ禍を受けて構築してきた「オンライン授業での情報保障に関するコンテンツ集」に必要な改善を加え、ユーザーにとってより有益な情報をわかりやすく提供するナレッジベースの構築・公開を目指す。

- ・募集期間：2023年6月1日から2023年7月15日まで
- ・助成金選考委員会：2023年8月28日
- ・助成対象の決定に係る理事会：2023年9月8日
- ・助成対象への決定通知：2023年9月8日
- ・助成金の交付：2023年10月27日
- ・応募総数：26件
- ・決定数：23件
- ・決定総額：21,557,846円（申請時金額）
- ・助成総額：20,841,686円（計画提出後支払金額）

2 会議の開催状況及び決議内容の概要

(1) 第1回理事会・・・2023年5月30日

- ① 令和4年度(2022年度)(第5期)決算の承認の件・・・承認可決
- ② 令和4年度(2022年度)定期提出書類(事業報告等の提出)の承認の件・・・承認可決
- ③ 2023年度(2023年度)奨学生の承認の件・・・承認可決
- ④ ボランティア規程の承認の件・・・承認可決
- ⑤ 旅費規程変更の承認の件・・・承認可決
- ⑥ 定款変更案の承認の件・・・承認可決
- ⑦ 選考委員の選任の承認の件・・・承認可決
- ⑧ 理事候補及び評議員候補者の承認並びに評議員会への上程の件・・・承認可決
- ⑨ 第6期第1回評議員会(定時評議員会)の招集の件・・・承認可決

(2) 第1回評議員会(定時評議員会)・・・2023年6月22日

- ① 令和4年度(2022年度)(第5期)決算の承認の件・・・承認可決
- ② 理事及び評議員の選任の件・・・承認可決
- ③ 定款変更の承認の件・・・承認可決

(3) 第2回理事会(決議の省略)・・・2023年6月22日

- ① 代表理事の選定の件・・・承認可決

(4) 第3回理事会(決議の省略)・・・2023年9月8日

- ① 第6期「学生応援給付金」実施の承認の件・・・承認可決
- ② 令和5年度(2023年度)(第6期)事業計画等(補正分)の承認の件・・・承認可決
- ③ 第6期「助成金」給付大学等決定の承認の件・・・承認可決

(5) 第4回理事会(決議の省略)・・・2023年11月13日

- ① 第6期(2023年度)「学生応援給付金」給付学生決定の承認の件・・・承認可決
- ② 「理12_寄附金等取扱規程」改定の承認の件・・・承認可決

(6) 第5回理事会(決議の省略)・・・2024年2月19日

- ① 2024年度奨学金対象大学及び募集要項決定の承認の件・・・承認可決

(7) 第6回理事会・・・2024年3月21日

- ① 令和6年度(2024年度)(第7期)事業計画等の承認の件・・・承認可決

- ② ボランティア規程改訂の承認の件・・・承認可決
- ③ 第6期第2回評議員会決議の省略に関する同意依頼の件・・・承認可決

(8) 第2回評議員会（決議の省略）・・・2024年3月27日

- ① 理事の選任の件・・・承認可決

(9) 第7回理事会（決議の省略）・・・2024年3月28日

- ① 業務執行理事の選定の件・・・承認可決

3 寄附者一覧

2023年度の法人寄附は2件（1社）、計145,159,000円、個人寄附は74件（57名、内7名は複数回）、計1,412,000円、総額146,571,000円となりました。

2023年4月1日～2024年3月31日（敬称略・順不同）

法人		
伊藤忠テクノソリューションズ株式会社		
個人		
矢野 裕昭	平山 伸一	野口 雅仁
奥村 弘幸	柘植 一郎	尾本 昇
松島 泰	土屋 貴之	下地 俊一
渡邊 香織	芝 美和子	田上 俊輔
小林 伶	福澤 有太	水野 憲一
矢野 康生	伊藤 早紀	野々村 覚
稲木 賢一	黒澤 明洋	尾形 賢二
辻井 弘武	重藤 倫	高橋 智幸
笹田 亘	岡田 鈴菜	松元 康洋
伊庭 勇治	匿名 29名	

以上